

外部評価実施後コメント

【地域活動支援センター運営事業】

- ・地域活動支援センター「百」への委託事業としては継続すべきと考えるが、委託事業者への丸投げ感是否めず、行政(市・担当部課)として、もっと事業運営にも関与すべきである。
- ・本事業の課題として捉えている送迎サービスについては、委託事業者側での検討も必要であるが、既存の行政サービス(事業)を利活用するなど、部課をまたいだ組織横断的な検討が必要と考える。
- ・対象者(約 2,000 人)に「知らせる・知ってもらう」取り組みを進めるべきと思う。『知っているけど利用しない』より、むしろ、事業内容や支援センターの存在を『知らなかった』人数を減らすことが重要と考える。

障がいのある方への居場所づくりとしてセンターの社会的意義は高く、利用に際しては自由度の高さを持たせていることの良さも感じることができました。制度のはざまにある人への働きかけや送迎についての課題が今後より良いものになっていくことを期待します。指標については、活動の内容を数字で表すことの難しさもあるようには感じました。利用者数ばかりでなく、複数の項目を設けて数値化することで、活動の状況がより伝わりやすくなるように感じました。

エピソードはわかりやすく、実態がよくわかってよい。指標は、利用者/相談者数としてはどうか。ただし、対象者が障がいを持っていることから、相談→センター利用には時間がかかることも想定される。そのため、障がいを持った方の実態に即した指標を様々作成し、検討をお願いします。

ご説明とやりとりを受け、地域活動支援センターの対象者は、A票に記されている人数よりも、本来は少ないと理解しました。適切な評価に向けては、実際に利用する可能性のある方（相談支援専門員や窓口から情報提供された方）を対象

者とし、その上で活動・成果指標の吟味をされた方が良いと思います。また、成果指標を判断するに、アンケートのQ2の結果で評価していると伺いましたが、この項目のみで良いのか疑問は残ります。Q1も該当するのではないのでしょうか。アンケートでは汲み取れない利用者の声も、相談支援専門員や相談員などを通じて、掘り取れるようにしていただきたいです。

まだ立ち上がって間もない事業とのことなので、市民への周知活動と関連事業との連携を密にすることを通して、ニーズを踏まえた運営を目指していただけることを期待します。

- ・日々の利用者が定員に対し少ないことについて、色々と検討しているとのことだが、漫然と進めていてはいけない。将来の目標を具体的に設定し、その上で、現状の利用者数や利用の形態がどうなのかを分析し、対策すること。
- ・また、本市と事情の似た市外施設の状況との比較も行うと良い。

- 1 基本であるPDCAサイクルが行われていない
- 2 百千鳥と協議は毎月実施されているが、20人を受入可能な目標と設定することに対する会議がなされていない。C（チェック）がないので、A（アクション）に進めていない。
- 3 対象者を2000人と記載され、精神障害者600人が主な対象者と返答されているが、その後のアクションプランがなく、Aができていない。
- 4 百千鳥との協議で、なぜ、2項、3項のことが実施されていないのか。
今回の外部評価でアドバイスを受け検討しますでは、この事業目標である多くの人が地域の中で自立した生活を営めるようになる、ということの達成が難しい。
- 5 1日あたりの平均利用者数の目標について、R6：12人がR7：9人に減っていることは、疑問である、多くの人の自

立を支援することが課題であるのに、目標数字を減らして達成率をあげようと思受けられることは、本来の課題目標を達成する意欲が感じられない。

- ・送迎サービスを行う事については予算面や運営方針を明確にして対象者をしぼっていく事も必要だと考える。
- ・精神保健福祉士への相談件数及び解決件数を成果指標にしたらどうか。そのためには家族の方への情報公開に力を入れていくべきと考えます。

【自主防犯活動支援事業】

- ・本事業の最終成果である『防犯意識が高く犯罪のないまちになる』を達成するためには、市民(約 60,000 人)全員の意識高揚が重要と考える。そのためにも、市内事業者や各種団体と連携するなど、登録団体数を増やす取り組みが必要である。
- ・ボランティア団体の活動状況には、活動内容や時間帯に偏りがあるように見受けられる。刑法犯罪が起きている場所や時間帯等を分析して、「その場所・その時間帯」に活動していただける団体の掘り起こしも必要と考える。
- ・青パトロールカーでの巡回が防犯上で重要な活動であれば、その活動をもっと強化すべきである。ただし、青パトロールカーそのものの貸出を増やすことよりも、青色回転灯や必要項目が記載されたマグネットシートを貸出、車自体は各団体(各自)で準備するなど、青パトロールカーそのもののあり方も検討すべきと考える。

防犯ボランティアに関する長久手市のホームページを拝見しました。活動の呼びかけや報告、インタビュー等、親しみやすい印象を受けました。ジョグパトなど、個々の市民の協力を巻き込む形での防犯の試みも評価できるように思いました。私の町で受け取る回覧板には防犯ちらしがいつも入っていますが、どうしても暗くて怖いイメージが強く、敬遠したくなるようなものになってしまっています。犯罪を明るく取り扱うことはもちろんできませんが、活動への支援や呼びかけは今後も親しみやすさのある形で広げていただけたらと思います。

- ・中間成果の指標は、自主防犯活動の活動内容が分かる指標に変更いただきたい。
- ・例えば、他団体との合同事業 1 回あたりの参加人数や防犯キャンペーンで配布したステッカーの平均配布率など。中間成果を踏まえて、最終成果は「防犯意識が高く犯罪のないまちになる」ことであるので、指標は、刑法犯認知件数になるのではないのでしょうか。

ご説明をうかがい、市は地域の主体的な防犯活動に対して、その自主性を重んじていると理解しました。刑法犯認知件数の減少に向けて、市が行う防犯対策を進めるとともに、防犯ボランティア団体によるそれぞれの活動を広く市民に紹介し、すべての団体が集まって意見交換できる場の提供を積極的に進めていただきたいと思います。

従来の地域ボランティア団体に依存してきた活動を維持するだけでは、目標とする犯罪数の減少の達成は難しいと思われるので、今回の議論で提案があった、個人で散歩をしている方々に何らかのインセンティブを与えて、防犯活動にご協力願うなど、現状を踏まえて知恵を絞った活動支援事業としていただけることを期待します。

- ・ 防犯ボランティア団体数を指標としているが、団体数ではなく、何をやるのかが重要である。
- ・ 青パトについて、コロナ前までは、地域の人が市職員が運転する青パトに同乗させてもらい、車両のマイクで地域に対し広報して回っていた。市と協働していけるような指標を検討してほしい。

- 1 目標設定と予算が合わない部署も思っているにも関わらず、そのままにしますとの発言は、全く外部評価を行う意味がない。外部評価は、目標設定、予算が適切に行われているかどうかを議論すべき会であるのに、理解できていない。青パト貸出回数、防犯ボランティア団体の数は、活動指標として適切ではない、
- 2 P D C A サイクルの活動が実施されていない。刑法犯認知数が増加してきているのに、その分析がなされていないと思われる。刑法犯認知数の増加内容を明らかにして、何ができるか、何をすべきかを市民に示すことが出来ていないと思う。

防犯カメラの効果がどれくらいあるのか、過去から現在まで解決につながった事案がどれだけあるかなどの情報収集をした上で、今後のカメラの設置については考えていく必要があると思う。共助の必要性を若い世代やより多くの市民が自覚

できる様に、市役所からもっと PR や情報発信に力を入れていただき、団体のボランティアにこだわらず個人の力も発揮できる様にしていきたい。

<行政改革全般に関して>

- ・行政課が、目標達成のために P D C A サイクルをどのように、勧めるかを指導する必要がある。

行政課が指導できないなら、その業務ができる外部に委託すべきである。

- ・行政改革・推進委員会が設置されていることは、問題があり、その問題を解決すべきと思われる。

行政のトップがそのような認識を持ち運営されるべきと思う。

- ・行政評価票→行政改革・推進委員会の意見・助言→新たな行政評価票→新たな行動

この P D C A サイクルがどのように実施されているのか検証する必要がある。R 元年、行政改革・推進委員会の検討事業が 10 事業程あったと記憶しています。その全ての事業の上記の P D C A サイクルが実施されているかを検証したいと思います。その資料と外部評価を含めて、新たな意見を申し上げたいと思います。